

# 子どもの探究活動と 図書館の可能性

～中村百合子さんとの対話～

東京学芸大学教職大学院 副院長  
成田喜一郎

# なぜ、わたくしがここに

●歴史学（日本近現代史） 1971～

●社会科教育 1976/1978～

●国際理解教育 1978～

●学校図書館活用教育1978～

●ホリスティック教育 1994～

（越境する教育学の創成）

Balance, Inclusiveness, Connections, Sustainability

●高等教育/大学院教育 2007/2008～



# 中高生向け調べものの部屋の 準備調査プロジェクト

## ● 5つの志向性 p.49

i : 利用者ニーズの重視

ii : 読書材提供の重視

iii : 情報リテラシー育成への貢献

iv : 大人の読書への橋渡しの意識

→シティズンシップ

v : 大学教育への知的継続性

●多くの学校に置ける〈無志向性〉を視野に入れる

# 調べものの部屋コレクション 形成への提案へのコメント

- 自由研究などを目的とした調べものへの貢献  
→自由研究か、課題研究か
- 探究活動の体験プログラムの提供  
→修学旅行・校外学習（学校教育）、  
家庭教育や地域・社会教育への働きかけ
- 探究的な学習における〈問い〉の重要性  
→顕在的ニーズ、潜在的ニーズへの対応
- 国語科教科書に登場する作品の収集  
→全教科・領域の教科書等に登場する作品へ



# 提案への提案

- 学校図書館・公共図書館・専門図書館への誘い：図書館のアフォーダンス
  - \* 『世界の夢の図書館』の日本版・地域版
- メディアの多様性とその光と蔭へ
  - : 新聞, ラジオ, TV, インターネット, 携帯電話・スマホ, Web Page, Blog, Twitter, facebook, LINE etc.
- 未来からの問い：時事問題を超越る
  - \* 超高齢・人口減少社会への不安と希望等

# コレクション形成のための哲学

- 子ども、中高生、年少者へのリスペクト
- 本質的で根源的な問い  
探Q, 愛Q, 応Q, 生Q
- 虫の眼、鳥の眼、流れを読む魚の眼
- 知・心・身体へのアフォーダンス



# 問いを愛し、問いを生きる

あなたの心の中の未解決のものすべてに対して忍耐を持たれることを。

そうして問い自身を、例えば閉ざされた部屋のように、あるいは非常に未知な言語で書かれた書物のように、愛されることを。

今すぐ答えを捜さないで下さい。

あなたはまだそれを自ら生きておいでにならないのだから、今与えられることはないのです。

すべてを生きるということこそ、しかし大切なのです。

今はあなたは問いを生きてください。

そうすればおそらくあなたは次第に、それと気づくことなく、ある遙かな日に、答えの中へ生きて行かれることになりましょう。

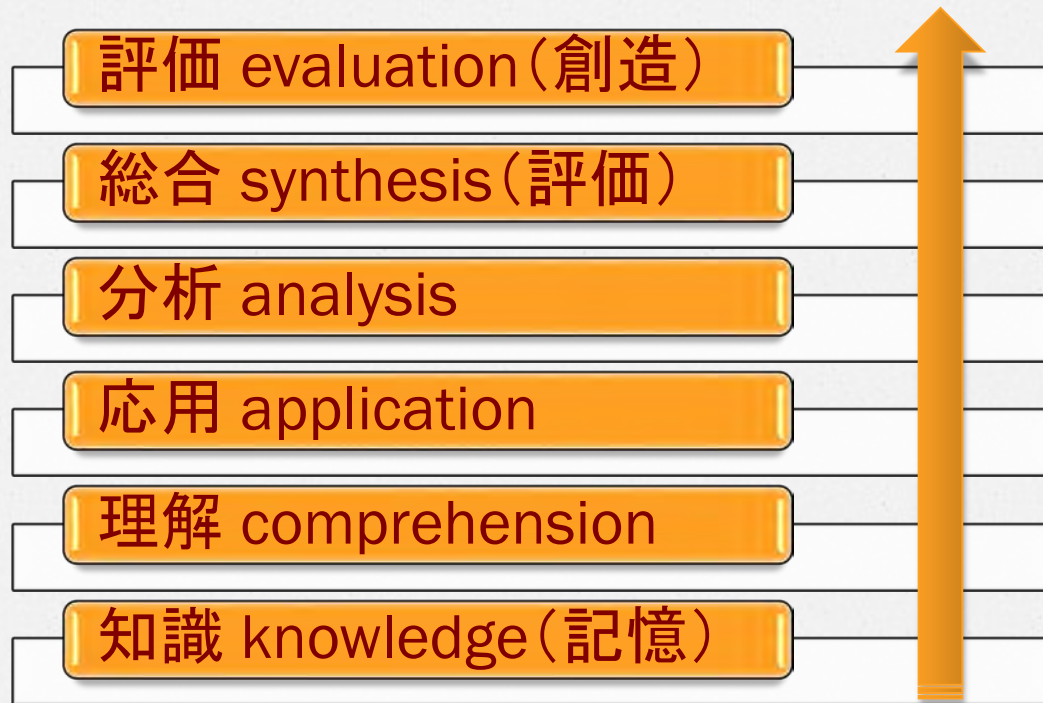
リルケ『若き詩人への手紙・若き女性への手紙』

# 探究 Inquiry とは何か？

- 教育目標の6分類
- 理解の6側面
- IBlearner profile
- 探究のサイクルと6つの局面
- 探究/つながりへの気づき
- 探究を促す10のポイント
- ESD,それは本質的で根源的な問いの探究
- 探究の作法、あれこれ
- ライフヒストリーの中の珠玉の探究実践
- 探究を探究する



# 教育目標の6分類<sup>1956(1999)</sup>



<http://www.intel.co.jp/content/dam/www/program/education/ijkk/jp/ja/documents/project-design/thinking-skills-bloom-taxonomy.pdf>

# Understanding 理解の6側面

Explanation 説明 (他者が納得できる論理・証拠)

Interpretation 解釈 (意味づけ・メタファー)

Application 応用 (多様な状況や文脈での活用)

Perspective 衡観 (批判的洞察的視点)

Empathy 共感 (他者の感覚や世界観の受容)

Self-knowledge 自己認識 (メタ・自己相対化)

McTighe & Wiggins 2004



# 理解の6側面



# IB learner profile

Inquirers	探究し続ける
Knowledgeable	確かな知識を獲得し続ける
Thinkers	思考し続ける
Communicators	コミュニケーションし続ける
Principled	信念を持ち続ける
Open-minded	ひらかれた心を持ち続ける
Caring	自他のケアをし続ける
Risk-takers	リスクを受容し続ける
Balanced	バランスがとり続ける
Reflective	省察し続ける

IB: 国際バカロレア



# 高校生のための研究入門

## —探究のサイクルを楽しむ—

福井県立藤島高等学校SSH文系テキスト  
(大阪教育大学・八田幸恵氏ら執筆)

<http://www.fujishima-h.ed.jp/data/Kouki%20kenkyukiso%20text%20bunkei.pdf>

# 探究の6局面





# 探究の6局面

- 問題状況を探索する
- 解決すべき問いを立てる
- 解決すべき問いを立てる
- 問いの答えを仮説として持つ
- 問いの解決方法を実行する
- 答えを出し振り返る

# 振り返りの重要性

●省察reflection：論理・証拠

●観想contemplation：直観・洞察

●観想・省察：主観の客観化



虫の眼・鳥の眼・魚の眼で  
事前・事中・事後のすべてで



# 探究／つながりへの気づき

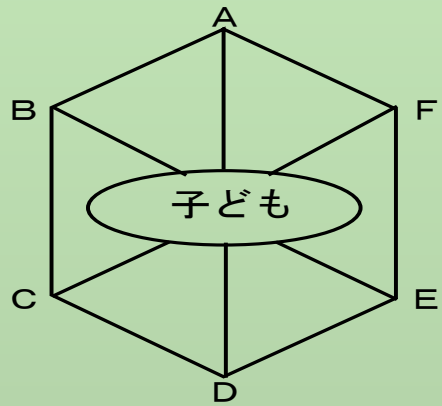
個人や  
コミュニティ

論理と直観

自己

多様な知の  
分野

心と身体



- A : 「人間」 個人・家族・社会・民族・人種などとのつながり。  
 B : 「時間」 現在・過去・未来などとのつながり。  
 C : 「空間」 家庭・地域・国家・地球・宇宙などとのつながり。  
 D : 「事物」 自然・商品・事物・物質などとのつながり。  
 E : 「情報」 受信・発信・交信・通信などとのつながり。  
 F : 「精神」 理性や論理、直観・感性・想像力などとのつながり。  
 A・B・C・D・E・F : 「あらゆるもの」 平和、人権、環境、  
 開発、国際理解・異文化共生など課題とのつながり。

図1 子どもたちをめぐるホリスティックな教育・学習の世界

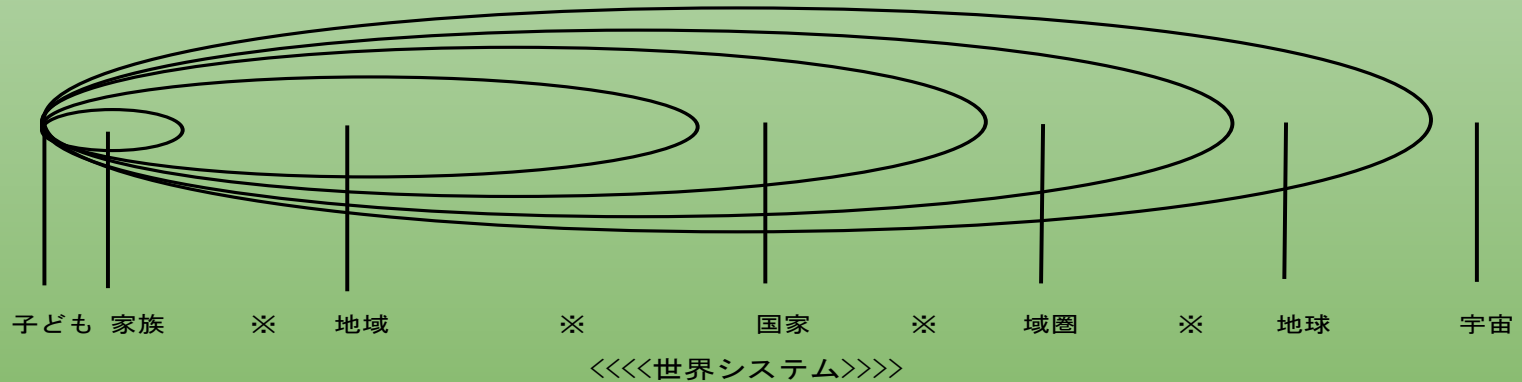


図2 子ども（人間）の外的世界の構造



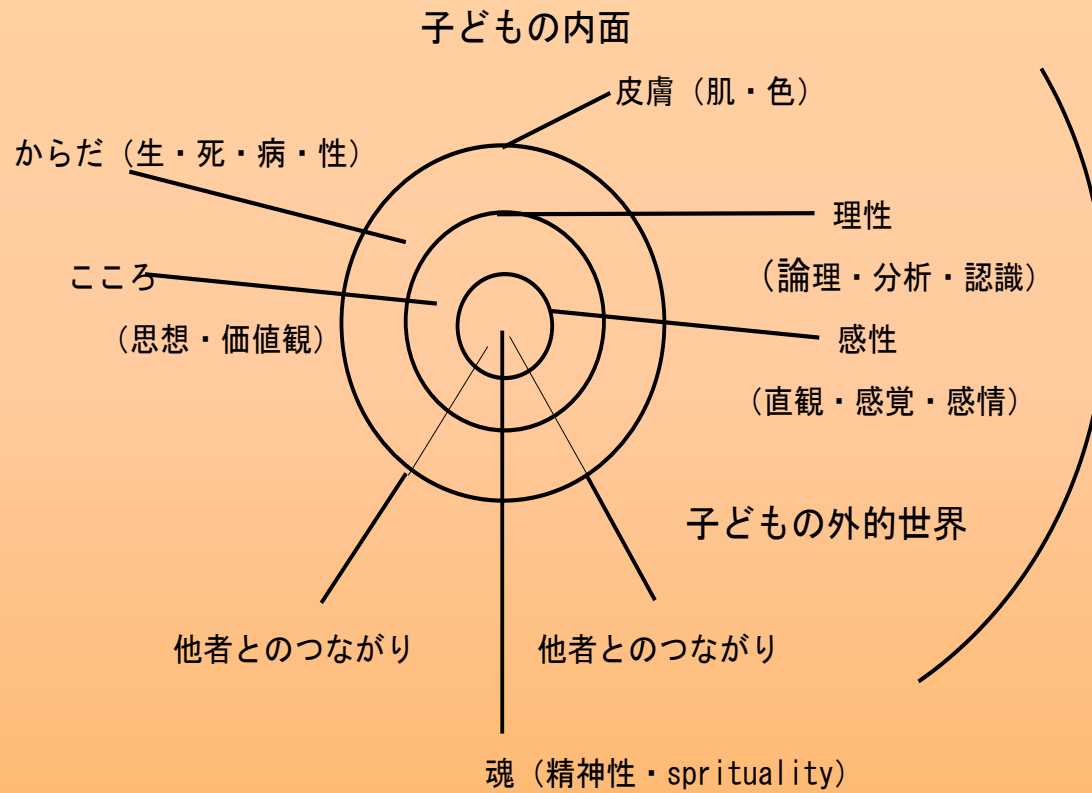


図3 子ども（人間）の内的世界

# 探究を促す10のポイント

## ホリスティックなアプローチ

- ① 学びには、身体、感情、知性、精神のすべての面が含まれる。
- ② 知ることと学ぶことには、多くの道がある。  
8つ多元的な知性：言語的知性、論理数学的知性、空間的知性、音楽的知性、運動感覚的知性、対人関係的知性、個人の内的知性、博物学的知性等  
→Gardner, H. (1983),(1999)
- ③ 学びには努力と遊びの両面がある。
- ④ 学びが促進されるのは、心がやすらぐ環境にいるときである。
- ⑤ 学びが促進されるのは、生徒や学生が意欲的にとりくみそれをなすとげるときである。
- ⑥ 学びが促進されるのは、それが実際の生活に関係しているときである。
- ⑦ 〈自己〉を知ることは、ホリスティックな学びの核心である。
- ⑧ 成長や発達は大人になってからもつづく。
- ⑨ 学びには、過去の条件づけを解き放つはたらきもふくまれる。
- ⑩ 直観は、すぐれた知のあり方である。

出典：ジョン・P・ミラー(1997)『ホリスティックな教師たち：いかにして真の人間を育てるか』学研、pp.33-51,p.113。  
参考：「ホリスティック教育の理念」<http://www.holistic-edu.org/rinen.html>



# ESD

それは  
本質的で根源的な問いへの  
探究

ESD: Education for Sustainable Development  
持続可能な開発のための教育

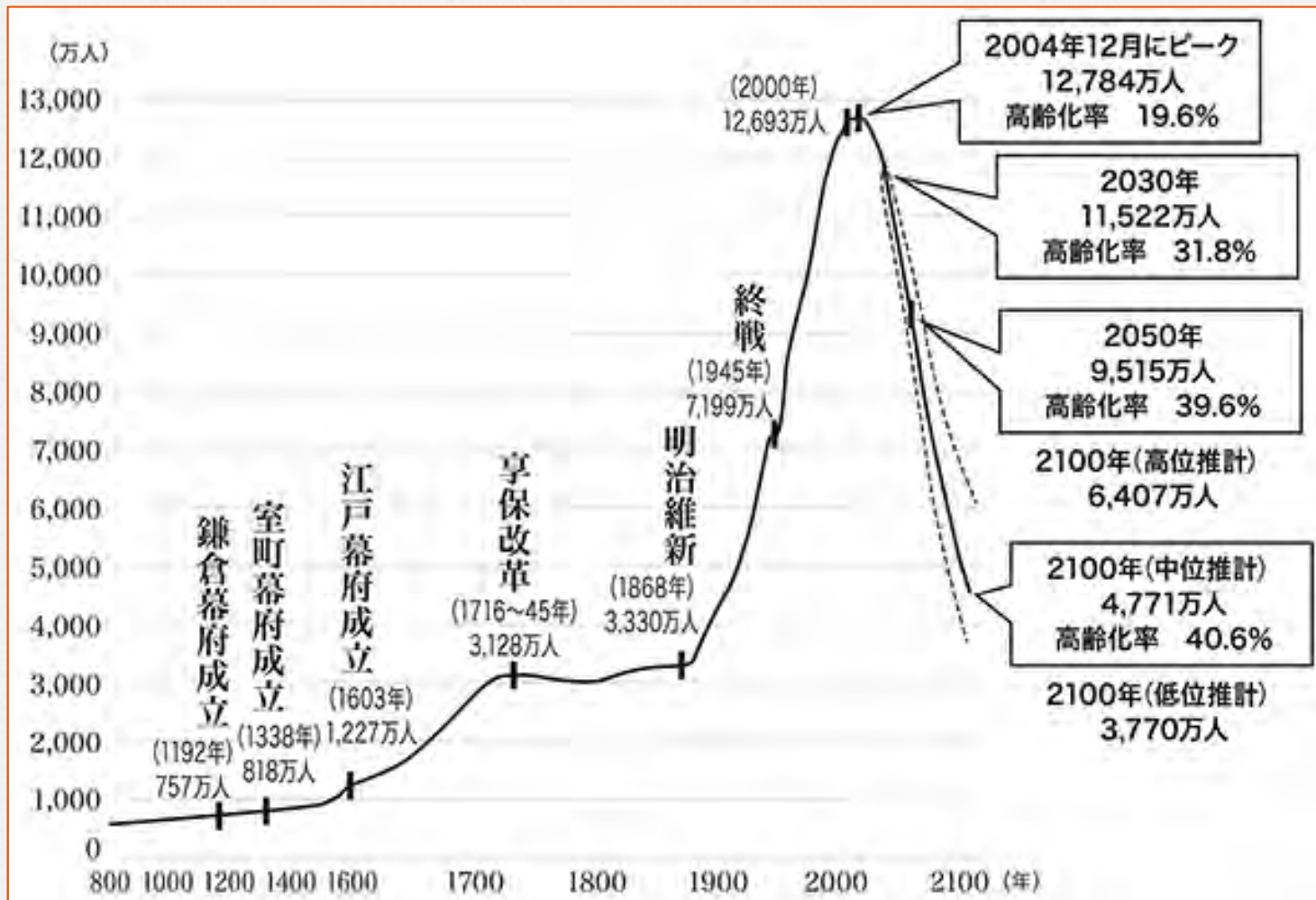
# 探究／ESDの指標

- (1) 持続可能な未来の担い手となるために不可欠な課題に取り組む学びであるか
- (2) 子どもたちと先生・保護者・地域の人々とがつながる学びであるか
- (3) 子どもたちと異なる時代や世代との対話が生まれる学びであるか
- (4) 今こと異なる地域や国とのつながりに気づく学びであるか
- (5) 正解はひとつではない〈ものごとの本質や根っこにある問い〉に気づく学びであるか
- (6) 〈ものごとの本質や根っこにある問い〉への答え探しの〈旅〉を続ける学びであるか



# 持続可能／不可能な課題

- ①**災害**：地震・津波・竜巻などの自然災害や原発事故に伴う原子力災害
- ②**環境**：地球温暖化をはじめとする環境破壊・公害
- ③**平和**：戦争・紛争・テロ、生物化学兵器・対人地雷・不発弾・核兵器
- ④**資源・エネルギー**：水資源、原子力・石油・石炭・水力・太陽光・風力等の開発
- ⑤**差別・偏見**：人種・民族、性の違い、障がいなどの差別・偏見の加害や被害
- ⑥**経済格差**：途上国・先進国間、各途上国・先進国内の格差の拡大・貧困
- ⑦**病気**：HIV・エイズ、鳥インフルエンザなど感染症などの疾病
- ⑧**食・薬品・薬物**：生命を維持させるはずの食・食糧、諸刃の剣である薬品・薬物
- ⑨**世界遺産・地域遺産**：その保護や破壊
- ⑩**信仰・宗教**：その布教と対立をめぐる問題
- ⑪**情報通信技術（ICT）**：PC・インターネット・携帯電話、SNSの利便性と危険性
- ⑫**犯罪・事件**：地域や学校などを舞台に起こる様々な犯罪・事件
- ⑬**いじめ・体罰や虐待**：学校や家庭などで後を絶たないいじめ・体罰や虐待
- ⑭**地球規模での人口の爆発と他国に先がけたわが国の超高齢・人口減少社会への突入**



広井良典(2013)



# ESDで育てたい力

## ①コミュニケーション能力

: つながりかかわり方、対話(愛・謙虚さ・信頼・希望・クリティカル)

## ②体系的な思考力(システム思考)

: 問題や現象の背景の理解、多面的・総合的なものの見方

## ③代替案を伴う批判的思考力

: Post3.11喫緊解題=クリティカル・シンキングの育成

## ④情報収集・分析能力

: Post3.11喫緊の課題=メディア・リテラシーの育成

## ⑤持続可能性につながる価値観を見出す力

: 人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重 等

## ⑥その他(目の前の子どもたちに必要な力)

<Hopes for a Sustainable Future>





# 探究の作法、あれこれ

- ① 自由研究学習
- ② 課題研究学習
- ③ 調べ学習
- ④ ペア学習
- ⑤ グループ学習
- ⑥ スノーボーリング学習
- ⑦ ディベート学習
- ⑧ 探Q学習
- ⑨ 対話型授業による学習
- ⑩ 講義中心の授業による学習

カリキュラム  
の中のどこに  
位置づけられ  
ているのか？

# ライフヒストリーの中の 珠玉の探究実践1980s-1990s

- 「歴史とは何か」「新聞とは何か」 → レポート
- 「生命」に関する総合的研究  
→ テーマの焦点化・調べ学習・本づくり
- 「農村と都会」「田野畑村と練馬」ディベート  
→ 中1地理、中3田野畑村修学旅行後のディベート
- 『ちびくろさんぼ』の絶版、是か非か  
→ 調べ学習からディベート学習へ

現代史の中の学習指導要領の変遷とライフヒストリー  
2014年版(参照)

<http://laotao.way-nifty.com/islikewater/files/2014.pdf>



# 探究を探究する

● 「探究型学習とはこうだ」と伝達講習するかたちでの講演ではなく、

対談・対話及び会場の皆さまとの質疑応答で「探究とは何か」という本質的で根源的な問いを共に考えるところに力点を置く試み。（社会構成主義的なアプローチ）

# Web Siteと問い合わせ先

- ホリスティック教育研究への誘い

<http://blog.goo.ne.jp/jzs03765>

- 越境する教育学の創成

<http://pedagogytocrosstheborder.blogspot.jp>

- 社会科教育の現在・過去・未来

<http://shakaikakyouikukennkyuu.blogspot.jp>

- お問い合わせ先：knarita☆u-gakugei.ac.jp

☆ = @